

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】 第 3 部門第 3 区分
 【発行日】 平成 18 年 6 月 8 日 (2006.6.8)

【公開番号】 特開 2004-331721(P2004-331721A)
 【公開日】 平成 16 年 11 月 25 日 (2004.11.25)
 【年通号数】 公開・登録公報 2004-046
 【出願番号】 特願 2003-125887(P2003-125887)
 【国際特許分類】

C 1 0 M 169/04 (2006.01)
C 1 0 M 101/02 (2006.01)
C 1 0 M 105/04 (2006.01)
C 1 0 M 129/08 (2006.01)
C 1 0 M 129/40 (2006.01)
C 1 0 M 129/70 (2006.01)
C 1 0 M 133/06 (2006.01)
C 1 0 M 133/16 (2006.01)
C 1 0 M 133/56 (2006.01)
C 1 0 M 139/00 (2006.01)
C 1 0 M 159/22 (2006.01)
C 1 0 M 159/24 (2006.01)
 C 1 0 N 10/04 (2006.01)
 C 1 0 N 20/02 (2006.01)
 C 1 0 N 30/06 (2006.01)
 C 1 0 N 40/04 (2006.01)

【F I】

C 1 0 M 169/04
 C 1 0 M 101/02
 C 1 0 M 105/04
 C 1 0 M 129/08
 C 1 0 M 129/40
 C 1 0 M 129/70
 C 1 0 M 133/06
 C 1 0 M 133/16
 C 1 0 M 133/56
 C 1 0 M 139/00 A
 C 1 0 M 159/22
 C 1 0 M 159/24
 C 1 0 N 10:04
 C 1 0 N 20:02
 C 1 0 N 30:06
 C 1 0 N 40:04

【手続補正書】
 【提出日】 平成 18 年 4 月 13 日 (2006.4.13)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】 明細書
 【補正対象項目名】 請求項 1
 【補正方法】 変更
 【補正の内容】

【請求項1】 潤滑油基油に、組成物全量基準で、

(A) 3個以上のポリオール及び／又はその縮合化合物を0.001～1質量%、

(B) 無灰分散剤を窒素量として0.01～1質量%

および

(C) 金属系清浄剤を金属量として0.01～0.5質量%

を含有してなることを特徴とする潤滑油組成物。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0051

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0051】

本発明の潤滑油組成物において、(C)成分は任意に選ばれた1種類あるいは2種類以上を併用して使用することができるが、湿式クラッチの動摩擦係数をより高めることができる点で、アルカリ土類金属スルホネートを使用することが特に好ましい。

本発明の潤滑油組成物における(C)成分の含有量は、組成物全量基準で、アルカリ金属又はアルカリ土類金属量として、その下限値は0.01質量%、好ましくは0.05質量%であり、その上限値は、0.5質量%、好ましくは0.35質量%、最も好ましくは0.14質量%である。(C)成分の含有量が上記下限値に満たない場合には動摩擦係数の向上効果が不十分であり、上記上限値を越える場合には、湿式クラッチの目詰まり等による動摩擦係数の維持性能悪化が懸念されるため、それぞれ好ましくない。